

早いものでもう令和7年も1/12過ぎました。振り返ってみたら昨年12月、今年1月で忘年会や新年会等の飲食の会合34回ありました。痛風も再発せずよく身体が持ったものです。ご縁があることはありがたく…健康に留意し引き続き積極的に活動します。

またこの間に職域2団体から講師講演の依頼を受け行わせて頂きました。自身にとっても準備が勉強になりますし、今後の取り組みの方向性を再確認することにもなりました。ご希望される方は是非お声がけくださいませ。

以下、昨年通信でお知らせした取り組みのその後の進捗です。

■ 旧県庁舎跡地活用 (NO.23 つながる力を具象化する)

官民連携まちなか再生推進事業

官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る。

未来ビジョン策定とビジョン実現のための自立・自走型システムの構築への支援



※1: 新規に取り組む「エリアプラットフォーム構築」と「未来ビジョン等策定」については、半年あたり合計1,000万円を上限とする。(最大2年間)ただし、試行・実証実験を行いながら、新型コロナウイルス感染症拡大を契機としたビジョンを策定するものに限り、最大3年間
※2: 1事業あたり1年間に限る。 ※3: 「エリアプラットフォーム構築」及び「未来ビジョン等策定」における準備段階においてのみ、市区町村を補助対象とすることができる。

昨年末、商工会議所まちづくり委員会の正副委員長に、自民党市議と共に「長崎市歴史的風致維持向上計画」を踏まえ「周辺地区の整備構想(グランドデザイン)を国の支援メニューを活用し作成すること」を提案し賛同を頂きました。

活用する支援策は左図、また並行して県・市の担当部署とも協議を行い同意もとれていますので、この枠組みには県市も入り、他にはくunch関係者(踊町)の方々も加入頂けそうです。軌道に乗れば青年団体はじめ広く募りたいと考えます。

■ 観光資源としての水産の魅力発信 (NO.34 お魚村構想)

昨年12月議会の水産部の委員会審査で、私の質疑に対し水産部長から「県(長崎市)にとって水産業の振興の意味からも必要な施設、早期の整備を目指したい」との答弁を引きだしました。

今年に入り複数の担当部署と協議を行い、県として整備を検討する方向性が確認でき、今現在は県において今後の取り組みとタイムスケジュール(案)を作成してもらっています。

■ 海外との連携による県政推進 (NO.21・22 シン出島を目指して インドネシア視察)

昨年、県議団10人で視察を行い、インドネシアの西ジャワ州レバナ地区(7地区、人口計約1000万)との連携協定を結ぶよう自民党県連として昨年12月に正式に県に要望しました。

具体の連携の内容は、既に同地区で日本の支援により実装展開されている「スマートシティの逆輸入で21市町でのスマートシティの展開」「産業人材の交流」「県産業の輸出」です。

そして先月、同地区トップの長官の来日に合わせ、東京～長崎間で私、企画部長・産業労働部長とリモートで協議を行い、連携の検討に入ることを確認できました。

